

北海道 上士幌町のマダニ類

山内健生¹⁾

Ixodid ticks (Acari: Ixodidae) collected from Kamishihoro Town, Hokkaido, Japan

Takeo YAMAUCHI¹⁾

Abstract

Haemaphysalis flava and *Ixodes ovatus* were newly recorded from Kamishihoro Town, Tokachi Region, Hokkaido, Japan. Of these, *H. flava* was newly recorded from Tokachi Region.

はじめに

ダニ亜綱（ダニ目とされることもある）の1グループであるマダニ目（マダニ亜目とされることもある。以下、マダニ類と記す）は、全種が寄生吸血性で、衛生動物として重要なグループである。宿主特異性はマダニ種によって異なり、野生動物（哺乳類、鳥類、爬虫類）だけでなく、ヒト、愛玩動物、家畜などからも吸血する。

マダニ類は、吸血の際に感染症をもたらす病原微生物を媒介する場合がある。北海道ではマダニ媒介感染症であるライム病やダニ媒介性脳炎などの患者が発生しており（Miyamoto et al., 1990; Takeda et al., 1998）、感染症対策の点からもマダニ類の研究が進められている。しかし、北海道におけるマダニ類の地理的分布に関する知見は少なく、不明な点が多い。特に北海道東部に位置する十勝地方におけるマダニ相の詳細はほぼ知られていなかった。

本報告では、十勝地方北部の上士幌町におけるマダニ類の記録を報告する。

材料と方法

2019～2023年に、上士幌町においてヒトの衣服や皮膚に付着したマダニ類を採集した。その他、帯広畜産大学昆虫学教室の収蔵標本の調査も行った。

マダニ類の分類・計数は、実体顕微鏡及び光学顕微

鏡下で行った。

結果

調査の結果、上士幌町において採集されたマダニ類は、以下の2属3種に分類された。

Haemaphysalis flava Neumann, 1897 キチマダニ

調査標本：1N, 幌加音更川風穴, ca. 720 m alt., 22 VIII 2020, 山内健生採集。

Ixodes ovatus Neumann, 1899 ヤマトマダニ

調査標本：1♂1♀, 糠平湖, 15 VII 2019, 山内健生採集；1♂, ぬかびら源泉郷, 20 VII 2019, 山内健生採集。

Ixodes persulcatus Schulze, 1930 シュルツェマダニ

調査標本：1♂1N, 円望橋付近, 860-880 m alt., 2 VIII 2020, 山内健生採集；1♂2N, 幌加音更川風穴, ca. 720 m alt., 22 VIII 2020, 山内健生・開澤菜月採集；2♂1N, 三股, ca. 700 m alt., 13 V 2023, 山内健生採集；1♀, 三股?, 17 VI 2023, 山内健生採集；1♀ (図1), 三股 (ca. 680 m alt.), ウペペサンケ山登山口 (ca. 550m alt.), あるいはぬかびら源泉郷 (ca. 530 m alt.), 25 VII 2021, 山内健生採集（11歳男児の左太腿に咬着していた人体寄生個体であり、上士幌町の山林で寄生されたと推測される。翌7月26日に帯広市の自宅にてワセリン法を使用し、ピンセットを用いてマダニ個体を皮膚から除去した）；1♀, 糠平, 8 VII 1957, 高野秀三採集；2N, 黒石平, 4

1) 帯広畜産大学昆虫学研究室 〒080-8555 北海道帯広市稲田町西2線11番地
Laboratory of Entomology, Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine. Inada-cho Nishi 2-11, Obihiro, Hokkaido 080-8555, Japan.



図1 11歳男児の左太腿に咬着中のシュルツェマダニ *Ixodes persulcatus* 雌成虫

X 2020, 山内健生採集.

考察

上士幌町におけるマダニ類の記録は乏しく、これまでにタネガタマダニ *Ixodes nipponensis* Kitaoka and Saito, 1967 とシュルツェマダニの2種が記録されていた(門崎ほか 1993a, 1993b)。したがって、本報告で記録した3種のうち、キチマダニとヤマトマダニは上士幌町新記録種である。これら2種を合わせると、上士幌町から記録されたマダニ類は合計4種となった。今回記録された3種のうち、ヤマトマダニとシュルツェマダニは北海道内に広く分布し、十勝地方においても複数の記録が知られていた(例えば、大野, 1966; Yamaguti et al., 1971)。一方、キチマダニは、これまで十勝地方から記録されていなかった。したがって、本報告は十勝地方におけるキチマダニの新記録となる。

本報告ではシュルツェマダニ雌成虫による人体刺症(図1)も記録された。北海道では、マダニ人体刺症

の大部分はシュルツェマダニとヤマトマダニの雌成虫に起因する(山口, 1994; 宮本, 2002)。したがって、今回記録した症例は、北海道で一般的なマダニ人体刺症であるといえる。

謝辞

一部のマダニ標本を採集・同定をしてくださった開澤菜月氏(帯広畜産大学)にお礼申し上げる。そして、マダニ採集にご協力いただいた乙幡康之氏(ひがし大雪自然館)、渡辺恭平博士、加藤優羽氏(神奈川県立生命の星・地球博物館)、山内理市氏(帯広市)に深謝する。本研究の一部は国立研究開発法人日本医療研究開発機構AMEDの課題番号JP21fk0108613の支援を受けて行われた。

引用文献

- 門崎允昭・小澤良之・河原 淳, 1993a. 日本産ヒゲマとツキノワグマの外部寄生虫(II). 森林野生動物研究会誌, **19**: 24-41.
- 門崎允昭・小澤良之・河原 淳, 1993b. 日本産クマ類の外部寄生虫. 北海道開拓記念館研究年報, **21**: 1-20.
- 宮本健司, 2002. 日本におけるライム病の疫学的研究. 衛生動物, **53**: 1-6.
- Miyamoto, K., Takahashi, K., Sato, N., Uruguchi, K., Matsuo, S., Iizuka, H., Mori, M., Tsuboi, Y. and Ohtsuka, K., 1990. Cases of erythema and Lyme disease associated with tick bite in Hokkaido, Japan. *Jpn. J. Sanit. Zool.*, **41**: 63-65.
- Takeda, T., Ito, T., Chiba, M., Takahashi, K., Niioka, T. and Takashima, I., 1998. Isolation of tick-borne encephalitis virus from *Ixodes ovatus* (Acari: Ixodidae) in Japan. *J. Med. Entomol.*, **35**: 227-231.
- 大野善右衛門, 1966. 北海道における野鼠寄生マダニ類について. 北海道立衛生研究所報, **16**: 62-68.
- 山口 昇, 1994. マダニによる人体刺咬症例の概要. SADI組織委員会(編), 「ダニと疾患のインターフェイス」. YUKI書房, 16-23.
- Yamaguti, N., Tipton, V. J., Keegan, H. L. and Toshioka, S., 1971. Ticks of Japan, Korea and the Ryukyu Islands. *Brigham Young Univ. Sci. Bull. Biol. Ser.*, **15**: 1-226.